

# 来村川河口(宇和島市)の渡り鳥・冬鳥飛来状況調査2013

1年3組 藤田 琴 1年4組 岡田ひかる  
1年4組 毛利 有里 1年3組 兵頭 輝  
1年3組 三好 祐輝 1年3組 山下 智也  
指導者 教諭 若山 勇太

## 1 課題設定の理由

来村川河口(宇和島市)は渡り鳥の飛来地として知られている。渡り鳥や冬鳥が越冬のために飛来し、河口域で採餌や水浴びを行っている。近年、年によって見られる種とそうでない種の変動が激しいと地域住民の方から情報をいただいた。そこで筆者らは2013年9月中旬から2014年1月中旬の間、来村川河口で鳥の種数と個体数を記録し、そのうち渡り鳥を含む冬鳥の飛来状況をまとめた。過去の記録(清水ら,2001)(久保ら,2004)と比較し、温暖化等の原因を考察し、渡り鳥飛来地としての環境を評価することを目的としてこの課題を設定した。

## 2 仮説

### (1) 温暖化の影響がある

地球温暖化が原因で世界全体の平均地上気温平年差は9~11月で+0.56℃ 12~2月で+1.06℃ 3~5月で+0.85℃のように気温が上昇している。つまり、気温の低下が遅れているため渡り鳥の飛来時期は遅れているのではないかと筆者らは考えた。

### (2) 来村川河口または出身地の環境が影響している

鳥類のエサとなる木の実や小魚などの資源不足や開拓などによる生活空間の減少等によって、渡りや移動の時期に影響が及ぶのではないかと考えた。

## 3 調査地点と調査方法

調査地点は愛媛県宇和島市新田町(北緯33度12分53.04秒 東経132度33分19.90秒)とした。この地点は神田川と来村川河口の合流地点の南側の空き地であり、柑橘畑に面したところである。

調査期間は2013年9月下旬~2014年1月中旬の4ヶ月間である。最低月3回、約30分、調査地点で双眼鏡(8倍)及びフィールドスコープ(30倍)を用いて観察したり、地鳴きやさえずりといった鳴き声で種名、個体数及び行動などを記録した。

## 4 結果と考察

### (1) 調査結果

調査期間中合計19回の調査によって記録された鳥類は23科44種であった。渡り鳥を含む冬鳥の記録は7科13種であった。月別の累計飛来種数を図1に示した。

10月中旬から12月中旬にかけてカモ科やカモメ科などの主な渡り鳥・冬鳥が飛来することが分かった。また、12月下旬か

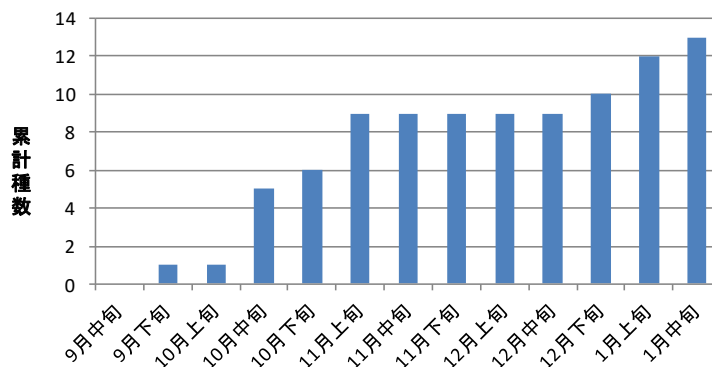


図1: 渡り鳥・冬鳥の累計飛来種数

らも新たな種の飛来が見られた。

## (2) 過去の記録との比較

今回の調査で確認できた渡り鳥・冬鳥の飛来時期と過去の文献(清水ら,2004;久保ら,2006)による当時の飛来時期とを比較したものを表1にまとめた。

飛来時期が過去より遅れている種もあるが、早まっている種や年によってばらつきがある種も多く、現時点での気温上昇は直接関係してはいないと判断した。よって、仮説(1)よりも(2)の方が有力ではないかと考えた。また、カモ類の飛来時期が約10年前に比べて早まっていることが分かった。大陸の環境に何か原因があるものと思われる。

表1：渡り鳥・冬鳥の飛来時期の過年度比較

	2001年	2004年	2013年
マガモ	11月中旬	11月下旬	10月下旬
ヒドリガモ	11月上旬	11月中旬	10月中旬
コガモ	記録なし	1月下旬	10月中旬
セグロカモメ	11月中旬	11月中旬	10月中旬
オオセグロカモメ	12月下旬	11月中旬	12月下旬
カモメ	12月下旬	11月中旬	1月上旬
ユリカモメ	記録なし	1月上旬	1月上旬
ハクセキレイ	10月中旬	10月下旬	10月中旬
ハイタカ	11月上旬	記録なし	9月下旬
ツグミ	記録なし	記録なし	11月上旬
シロハラ	2月上旬	記録なし	11月上旬
ジョウビタキ	11月中旬	10月下旬	1月中旬
アオジ	1月中旬	11月中旬	11月上旬

## 5 まとめと今後の課題

- (1) 飛来時期に関して、温暖化による気温の影響は受けていないと思われる。しかし、カモ類の飛来時期が早まっていることから、大陸の環境に何らかの変化が起きていることは間違いない。
- (2) 来村川河口は渡り鳥飛来地として適した環境ではあるが、調査地点の河川にはゴミが目につき、紐状の物を足に絡ませて飛んでいる鳥も観察された。生物の住みやすい環境づくりも今後の課題と言える。

## 参考文献

- ・愛媛新聞社編(1994)「愛媛の野鳥 観察ハンドブック～はばたき～」愛媛新聞社
- ・気象庁統計データ  
[http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/climate\\_change/2005/pdf/2005\\_2-1.pdf](http://www.data.kishou.go.jp/climate/cpdinfo/climate_change/2005/pdf/2005_2-1.pdf)
- ・久野公啓(2008)「タカの渡りを楽しむ本」
- ・久保晴盛・宝利陽子・赤坂知子・土居志織・橋越清一(2006)「宇和島市来村川河口付近における鳥類調査報告2004」『南予生物』南予生物研究会 14:19-33
- ・清水愛子・秋田美代子・赤松美里・石田佳代・山本洋資・橋越清一(2004)「宇和島市来村川河口付近における鳥類調査報告2001」『Uwajimensis』愛媛県立宇和島東高等学校生物部 1:32-45
- ・永井真人(2004)「カモメ観察ノート」文一総合出版
- ・真木広造・大西敏一(2000)「日本の野鳥590」平凡社
- ・三浦知之(2008)「干潟の生きもの図鑑」南方新社